

発言No.

16

受付No. 12

令和3年8月24日

9時40分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 14 番 氏名 岡本 正友

答弁を求める者
(口をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員長

発言項目及び要旨

1. 住みたい・住み続けたいまちづくりについて

「居場所づくり」とは、人が安心して自己存在感や充実感を得られる場所を作り出すことを指していると思う。そしてそこに住みたい・住み続けたいまちをつくるために、今期より総合振興計画後期基本計画(R4年度～R7年度)策定が進められているが、より実効性あるものにするために、第2次浜田市総合振興計画におけるまちづくりの大綱の「Ⅱ健康でいきいきと暮らせるまち」の中から3子どもを安心して産み育てる環境づくり、4高齢者福祉の充実、5障がい者福祉の充実の3点にスポットあてて、それぞれの居場所づくりについて市民の声を拾い上げていただきたいと考える。

(1) 若者の居場所づくりについて

① 安心・安全な子育て環境整備における地域の関わり方について問う。

「保護者が仕事と家庭生活を両立しながら安心して働ける環境を整備するとともに、家庭・地域・行政が一体となって、次世代の担い手である子どもたちが心豊かに成長し、将来に向かって夢や希望を持てるまちづくりを展開する」としている。事業や取組について、地域の関わりが見えないが新たな方策を伺う。

② まち・ひと・しごと創生総合戦略プラスにおける若者会議設置事業の進捗状況等について問う。

浜田市では、国や県の戦略と歩調を合わせた人口減少対策の取組から、本年2月にまち・ひと・しごと創生総合戦略プラスが示されている。その中から施策3の『若者の暮らしやすいまちづくり～若者の社会減を減らす』事業の進捗状況と若者会議事業の取組を伺う。

(2) 高齢者の居場所づくりについて

① 在宅介護支援の課題と介護タクシーの充足状況を問う。

高齢者のアンケートにおける将来の日常生活全般について、特に不安に感じている点は「自分や配偶者の健康や病気のこと」や「生活のための収入のこと」で、増えていると認識する。先般、配偶者である奥様がリウマチと骨粗しょう症の疾病もあって、自宅において転倒され、左手左脚を骨折される大けがをされた話を伺った。現在は退院されて家庭でのリハビリ中であるが、日々の介護疲れと通院のための介護タクシーの確保がままならない不満から厳しい苦言を伺ったところである。課題の認識と介護タクシーの現状と対応策を伺う。

② 介護予防の普及と生活支援体制の課題について問う。

アンケートから、高齢者とは「70歳以上」と考えている人の割合が多く、「支えられるべき高齢者」については「80歳以上」と考えている人の割合が最も多いが示されている。また「普段の生活での楽しみ」について、「テレビ・ラジオ」と回答した人の割合は79.3%で最も多く、「新聞、雑誌」(49.6%)、「仲間と集まったり、親しい友人、同じ趣味の人との交際」(35.6%)、「家族との団らん、孫と遊ぶ」(33.4%)、「食事、飲食」(32.8%)、「旅行」(32.0%)等の内容から特に80歳以上の浜田市における独居と引きこもりの現状を危惧するところである。後期基本計画における地域や関係機関の連携の新たな支援の方策を伺う。

(3) 障がいのある人の居場所づくりについて

① 障がいのある人一人ひとりの自立と雇用の促進について問う。

浜田市は福祉のまちといっても過言ではないと考える。近県他市からの治療や就労移住などに対する身体障がい者や精神障がい者の受入れの施設が多くあり、ライフステージに応じた総合的かつ継続的な支援が推進されている。自立と雇用促進の状況及び認識を伺う。

② 共に生きるバリアフリー社会の実現と社会参加の促進について問う。

障害者差別解消法において、バリアを解消し基本的人権が尊重され、そしてお互いが理解しあう共に生きる社会の実現に向けた主な事業と取組が示されているが、社会参加の促進についての新たな方策を伺う。